

公益社団法人私立大学情報教育協会
平成 26 年度第 4 回 FD 情報技術講習会運営委員会議事概要

- I. 日 時：平成 27 年 1 月 19 日(月) 16:00 から 18:00 まで
II. 場 所：公益社団法人私立大学情報教育協会会議室
III. 参加者：高橋担当理事、田宮委員長、竹内委員、金子委員、今井委員、家本委員、
Skype：及川委員、枳尾委員、渡辺アトバ伊
事務局：井端事務局長、野本

IV. 検討事項

各コースの講習内容について担当の委員から説明を受け確認した。

1. LMS 活用コースについて

アクティブ・ラーニングとは、授業の実際、授業と LMS、自分の授業で学生参加型をイメージ、LMS 基本技術と授業への活用、付加機能の紹介、タブレットの授業利用の流れを考えている。

- ・ 昨年度の参加者から教わりたい要望があり、説明部分を前回より加えた。
- ・ 1 日目は、自分の授業をアレンジしてもらう予定にしている。
- ・ 2 日目は、LMS (Moodle) で基本的な部分の理解として、フォーラム作成など実習を予定しており、細かな操作部分の説明を追加する予定にしている。
- ・ タブレットについては、レスポンス、共有機能などプレゼン利用を紹介する
- ・ 3 日目は、授業案を作成してグループ討議も予定している。

2. タブレットを意識した電子書籍型教材作成コースについて

Prezi プレゼンテーション、音声入力・画面録画・ファイル変換、電子書籍型教材作成の流れを考えている。基本的に昨年度の流れを継承することになっている。

- ・ Prezi は、バージョンが変更された分を更新する予定にしている。
- ・ 電子書籍教材は、実習をわかりやすくするために資料を追加している。
- ・ 実習について Prezi の作成希望がないのか質問があったが、昨年の参加者の一部では最終教材作成発表で Prezi の教材を提示した参加者もあった。
- ・ 参加者テキストのスタイルは可能な範囲で、LMS コースに合わせることを考える。
- ・ 来年度の企画に向けて、Prezi の認知度、Prezi にかかる時間、コースタイトルなどについて再考する必要があるのではないかと。

3. 双方向・参加型授業コースについて

アクティブ・ラーニングとは、学力不足対策、成功・失敗事例、ICT 活用、反転授業の講義・ディスカッション、各自の授業作成の流れを考えている。

- ・ アクティブ・ラーニングとはの部分は LMS と合同で進めるため、コースにわかれた時に LMS コースで説明のダブリがないように調整が必要。
- ・ 双方向とは、事前授業から学生がピアレビューなどで相互確認により、知識が定着できているかの確認されること。例えば、グループにテーマを与えてこと、テーマを座学で考え、振り返りからレポート提出までの学び。2 単位での実施、初年次教育、反転授業の取組みなど。
- ・ 合同部分では、双方向・アクティブラーニングの一般理想論、途中段階や反転授業も含めてはどうか。
- ・ 学力不足はアクティブラーニングでは救えないこと、対象学生は初年次で救い 2 年次には追いつく想定が求められ、ファシリテータの支援も必要。コースでは参加者の意見を求めてはどうか。
- ・ アクティブ・ラーニングは、例えば、学力不足に対してなど上手くいかないものもあるが、どのような対応があるのか、成功・失敗例を出してはどうか。
- ・ 事前課題レポート、ディスカッション報告書、クリッカ活用など ICT 活用が考えられる。
- ・ 反転授業では、問いかけが上手くできるのかがポイントではないかと。

V. 今後のスケジュール

- ・ 双方向・参加型授業コースの内容を 2 月 6 日に打合せ会を開催して検討することにした。